

英國倒行律例

川路寬堂譯

一

甲  
四

東 京 圖 書 館				
二冊	五 一 號	三 架	一 函	屬 類

036605-001-1

1-51

英國倒行律例

川路 寬堂/訳

M9

BBS-0019





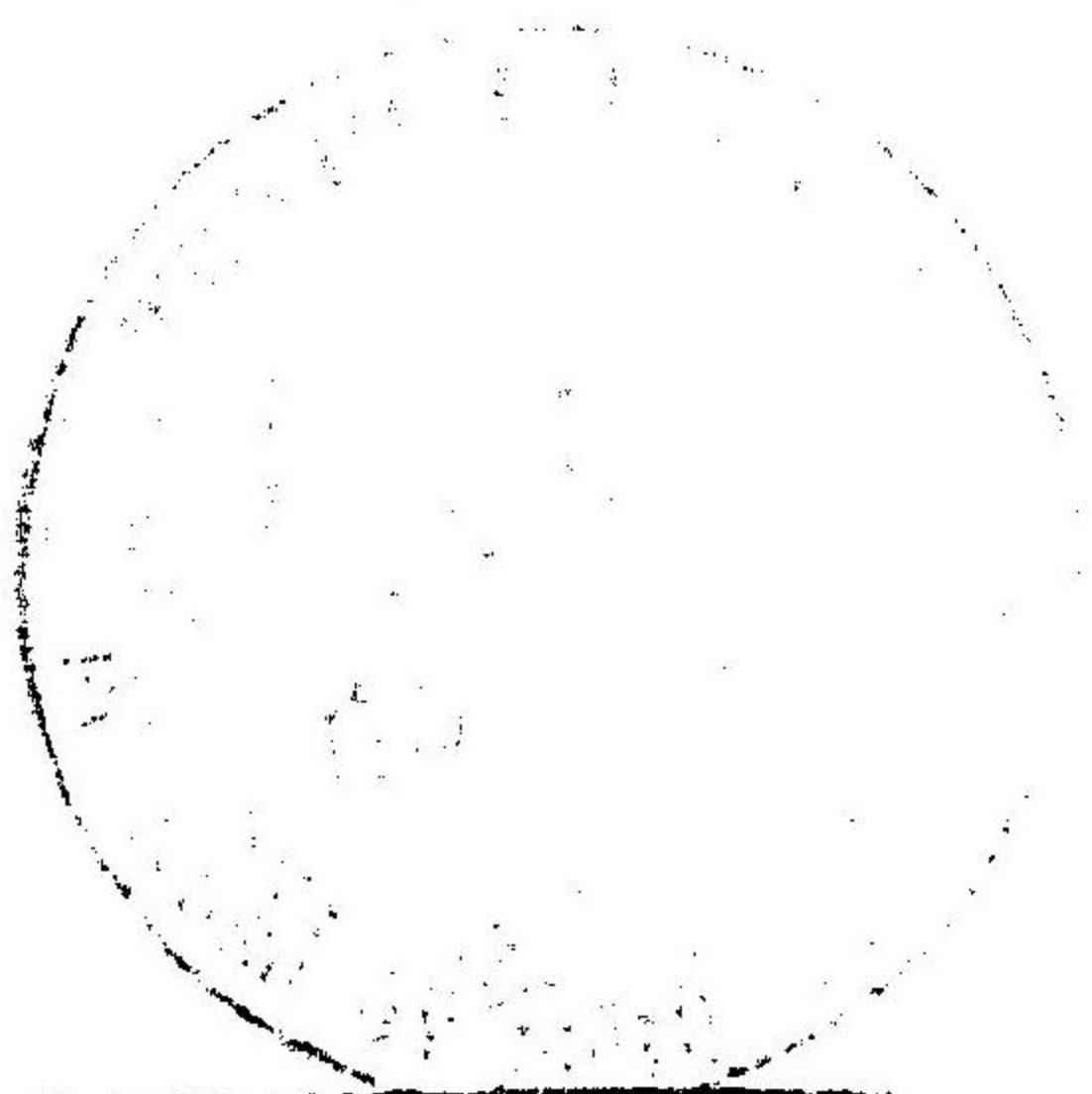
許免權版

川路寬堂譯

# 英國倒行律例

明治九年  
十月刊行

奎章閣發兌



英國倒行律例序  
川路寬堂君譯英國倒行  
律例刻成屬余序余乃曰  
凡商先倒其行而後倒其  
行釋之云上行字者鼎行  
也下行字者行舖也蓋謂  
世之商賣必先壞倒其品



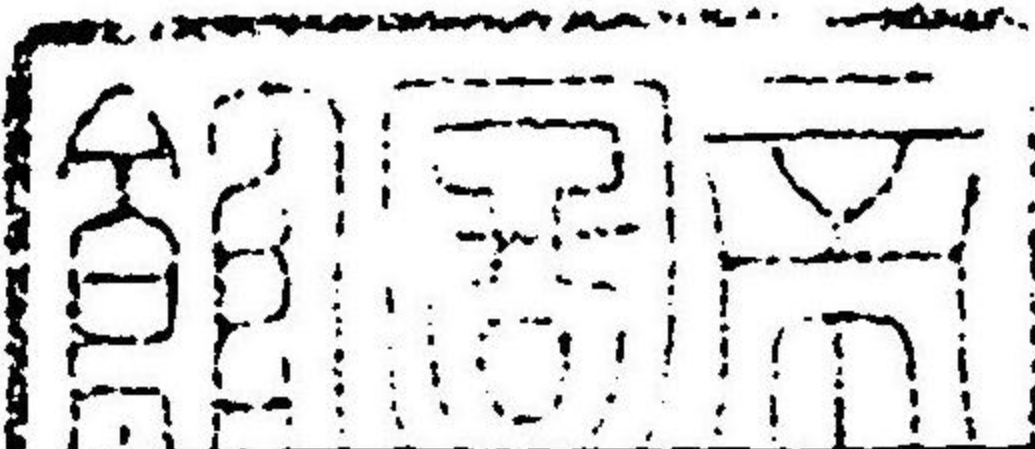
川路寬堂譯

英國倒行律例

版權免

明治九年  
十月刊行

本堂代印



英國倒行律例  
川路寬堂君譯  
律例刻成屬余序余乃曰  
凡商先倒其行而後倒其  
行釋之云上行字者品行  
也下行字者行舖也若謂  
世之商賣必先壞倒其品

序  
明治九年圖書局交刊



行多做殘刻不良之事，得  
罪於朋友社會，而後其質  
易日衰，而行鋪則倒破矣。  
或曰：倒行者，時運為之也。  
余曰：間有之矣。然人苟居  
心忠厚，立身正直，則行鋪  
雖或倒，而不行，之，不陷去。

自如也。無何而行鋪亦可  
立矣，而其盛大，或倍獲於  
舊焉。或由時運而倒，行  
者，可得而復也。由品行而  
倒，行去，不可得而救也。西  
儒曰：輝曰：真寔者，商賈之  
所由盛也。漢史曰：貪賈之



之廉價五之蓋言貪婪所  
獲之利少也。至其貪婪已  
甚，品行壞倒，則不蓄利少  
而行且倒，故名曰行先  
倒而後行。此倒者，豈不位  
卑抑余。此言者，倒行之  
大道理也。友人必先知此

大道理而後，此倒行律例  
可得而讀矣。不然，而巧詐  
機變之後，縱能諳熟法律  
例務，行奸急于刑典之外，  
而豈能遂遂此大道理之  
範圍乎哉。讀此書者，其可  
深長思矣。



明治九年十一月二十日

敬守中邦正道

蔣潭鰈信長祚書



英例律例譯文緒言

新敷氏言アリ曰ク各地ノ法制トハ人々

規則ナリト夫レ人間社會ノ開進ニ應シ

テ論ヲ待ナルナリ凡ソ世人漸ク有無ヲ

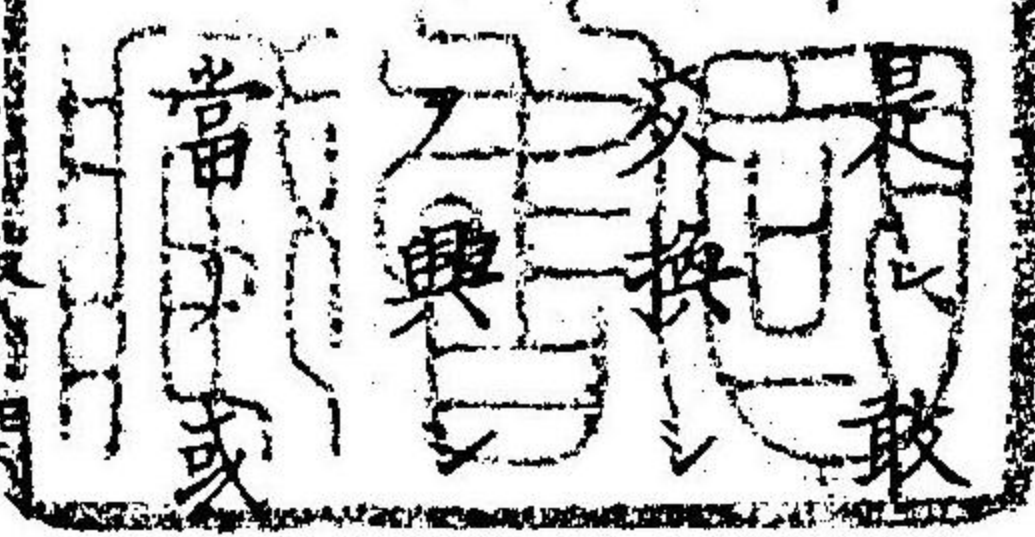
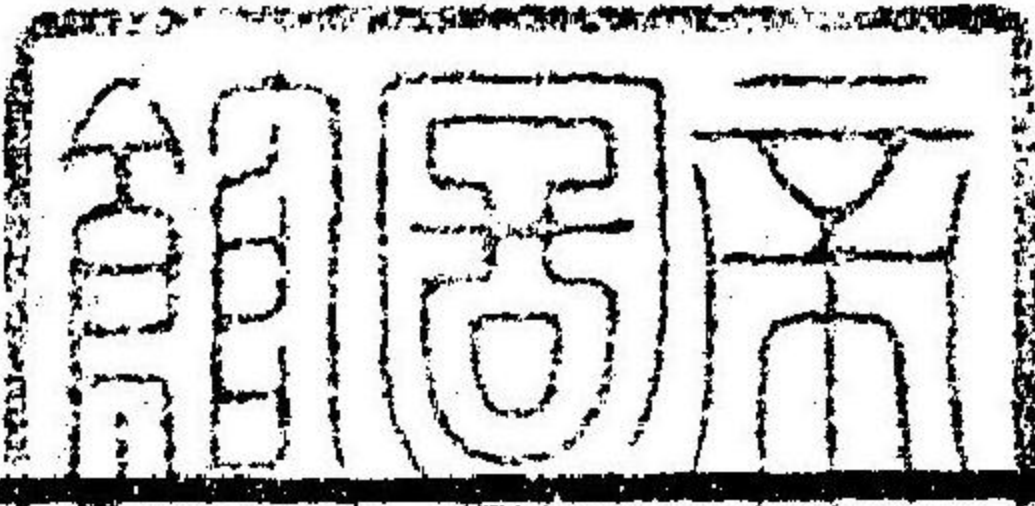
需要ヲ共通スルノ理ヲ曉リ産ヲ開キ業

互ニ勞役ヲカメテ文化ノ日月ヲ送ルニ

ハ歳華ノ豊凶或ハ物價ノ高低或ハ市場

ノ繁閑ニ依テ各員ノ業務上ニ盛衰アリ甲ハ幸

トニ富殖ノ壇ニ登リ乙ハ不幸ニシテ破産ノ厄





ニ罹ルト云が如ク浮沉出沒極リナキハ自然ノ  
 理ニシテ而メ之ヲ防クベカラズ今ヤ歐米各國  
 文明ノ高度ニ登リ商業ノ盛華ヲ致スト雖モ其  
 中宇内ノ市場ヲ占メ通商ノ中心ヲ有シ百般ノ  
 會社各種ノ商舖星羅基布スル一蓋シ英國ニ出  
 ルモノナシ然シテ而メ産ヲ破リ業ヲ廢シ解社  
 鎖舖スルモノモ亦年々英國ニ於ル甚ダ多シト  
 云茲ニ於テ斯ル破倒ノ商賈ヲ掌理スル適宜ノ  
 規則豈ナクンハアルベケンヤ其則タル酷ニ失  
 テズ寛ニ流レズ時々改正シテ而メ只當世ノ事

務ニ適セシメ以テ債主ノ權利ヲ保護シ負債者  
 ノ義務ヲ盡サシメントスルニ在ノミ是レ則テ  
 倒行律ノ設ケアル所以ナリ

倒行ノ原詞義ハ伊太利語ノ「バンコ、ロツト」倚子  
損スルトヨリ出テ古ヘ維尼斯府ノ商賈ガ倚子  
云ノ意

ニ在テ兌換ヲ業トセシ者ニ於ルヨリ初リシト  
 云而メ其處分ノ法律ヲ英國ニ於テ制定セシハ  
 實ニ「イドワルド」第三世ノ代ニ於ルヲ初メトス  
 此レヨリ屢改正増減シテ一千八百六十九年ニ  
 至リ當今履行スル所ノ律例ヲ立定セシナリ



キ之ヲ以テ往昔羅馬ノバトリシアン時代ニ父  
 物制度ハ稍々具レテ猶ホ負債者ヲシテ債主ノ  
 奴隸タラシムルノ如キ苛法アリシト比考セバ  
 何ゾ相去ノ遠キヤ是レ時勢ノ變遷ト社會ノ開  
 進ニ基クト雖モ抑モ又商業ノ盛態ニ依テ自  
 斯ル法制ニ沿革アルノ故ナルベシ然ラバ乃チ  
 倒行律ハ通商社會ニ関涉スルト大ニシテ而メ  
 全ク其社會ノタメニ設ケナス所ノモノナリ英  
 米ノ法家が此律ヲ以テ商務通法ノ部ニ掲クル  
 一亦宜ナラズヤ

メリカニタイロキ

余嘗テ英國ニ遊ビ其商業ノ盛大ヲ視又之ニ関  
 スル法制ノ一二ヲ窺ヒ深ク感スル所アリシ後  
 余職ヲ大藏省ニ奉シ偶マ公務上ニ於テ英國ノ  
 倒行律ヲ照考スベキトアルニ會シ當時ノ長官  
 閣下余ニ令シテ之ヲ審査セシム然ルニ英國ノ  
 法律書タル其意味深遠余ガ淺學ノ能ク瞭解シ  
 得ル所ニ非ズシテ而メ其法局ノ習慣等ニ至テ  
 ハ疑團アリシモノ少ナカラズ依テ之ヲ米國ノ  
 狀師ヒル氏及ビ其他數氏ノ英國法律家ニ質問  
 セシト二十餘日苦學ノ餘此倒行律例一篇ヲ譯

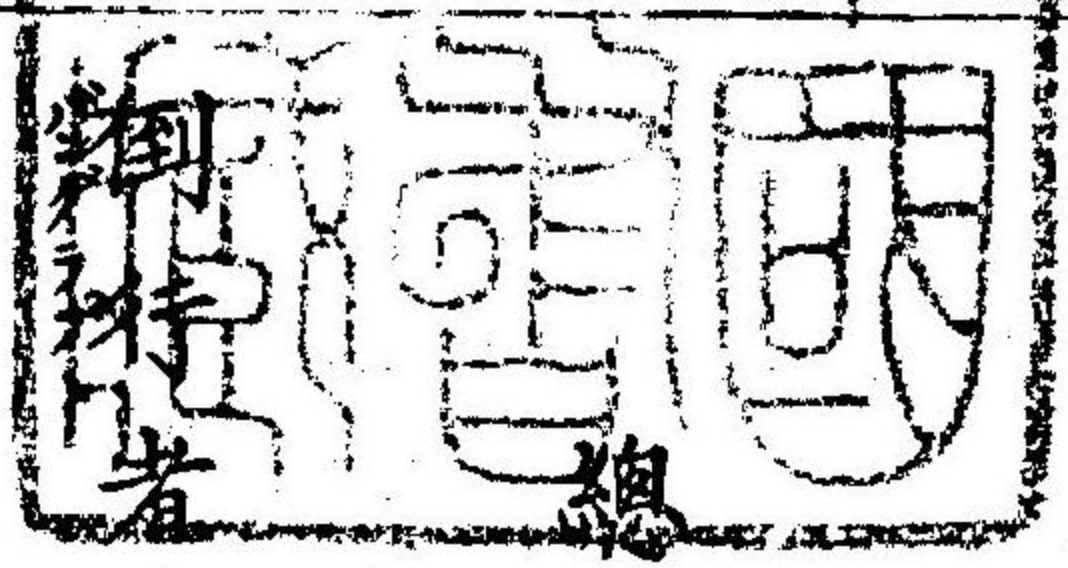
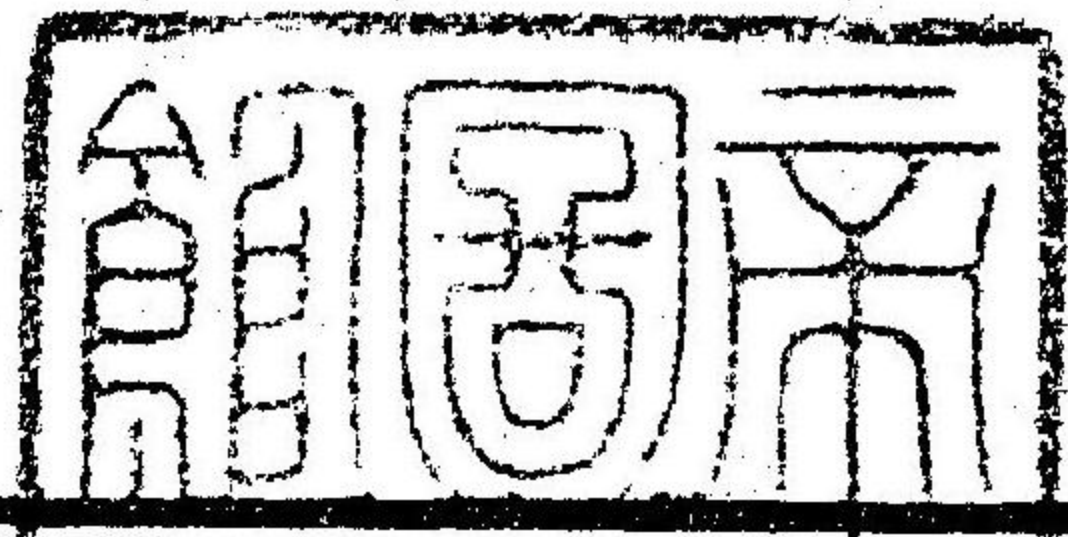


述セリ然リ而メ處務ノタメ其參照ヲ了リ此ニ  
 久シク之ヲ官庫ニ束閣セシガ余惟ルニ方今我  
 國ノ商業漸ク盛大ニシテ商會商舖或ハ興リ或  
 ハ倒レ浮沉常アルナキニ際シ當世ノ君子若  
 シ英國ニ於ル倒行ノ處分如何ヲ參考セバ蓋シ  
 其益ナシトスバカラズ此ニ於テ今余幸ヒニ大  
 藏卿輔閣下ノ許可ヲ受タルニ由リ更ニ官准ヲ  
 經テ以テ之ヲ世ニ公ニセント欲ス余素ト翻譯  
 ヲ業トセズ拙文拙譯請フ看者之ヲ恕セヨ

明治九年第九月

譯者 識

英國倒行律例卷之一



總意

第一條

倒行

トハ一商賈ノ其家産闕亡セシ歟或ハ家  
 産アリトイヘル即時相當ノ金額ニ更換ナリガ  
 タキヨリシテ債主ノ需ニ適スルヲ得サルト  
 ノ一既ニ發露シタルモノヲ云コレ法律上ニ於  
 テ債主ヨリ之レニ強迫處分セシムルノ權ヲ與

川路寬堂 譯述



フルモノナリ蓋シ倒行ハ折本ト少シク差異ヲ  
 生ズルニ似タレ凡折本モ亦均シク債主ノ需ニ  
 適シガタキモノナラン然レ凡只其主意ハ負債  
 者其身ヲ債主ニ隱シ或ハ其他避的ノ所為ニ依  
 テ償債ナシカタキヲ公ニ示サバハルモノヲ云  
 ○一千八百六十一年ノ倒行處律ニ於テ一當今尚  
 百六十九年ノ改定條例 倒行ト折本トノ分別ヲ  
 以テコレニ増補ス 倒行ト折本トノ分別ヲ  
 廢シ然シテ右二種ナル負債者ヲ處分スルニ悉  
 ク同一ノ律例ヲ以テセリ  
 從來ノ憲法ニ於テ債主ノ權ニ依リ其負債者ハ

自身又ハ其財産ヲ拿獲スルヲ得ルト雖凡同  
 時ニ其身ト財産ノ両ナカラヲ拿獲スルヲ許  
 サス若シ債主ヨリ裁判所ニ告ケ其負債者ヲ罪  
 科ニ處セハ後再ヒ其財産ヲ拿獲スルヲ得ス  
 ○俗法按スルニ英國古來言ヒニ於テハ諸ノ債  
 主各其債額ヲ全復セントテ各同シキ方法ヲ行  
 と各自ノ利ヲ需メ他ヲ不顧トナレ凡倒行律ニ  
 於テハ此レニ反シ諸ノ債主協一ノ訴告ヲナシ  
 債主人員ノ多少ニ不拘總債額ヲ處斷シ其利得  
 費項共均シク各債主ニ分當スルナリ○負債者



ハ法律ニ從ヒ己レ所有ノ家産動不動ヲ論セス  
 皆コレヲ解去リ一ノ受托者ニ附與ス其受托者  
 ハ諸債主ニテ撰舉スル歟或ハ司法官ヨリコレ  
 ヲ命スルモノナリ○負債者己レ所持ノ財産ヲ  
 悉ク出シ其所為判然トシテ別ニ奸詐所持物ヲ  
隠ス等ヲ  
 云 犯法ノ事ナクシテハ當人ハ全ク釋放サレ再ヒ  
 營業ニ就キ追次又財産ヲ所有スルモ敢テコレ  
 ヲ問ハス且其無罪ノ所為ヲ比例シテ總債主ノ  
 受收スヘキ財産ノ内ヲ以テコレニ授與ス  
 近年倒行律ノトニ就テハ紛々ノ論議アリテ商

務公法ノ中此錯雜ノ件ヲ改定セント專ラ注意  
 アリタリ○一千八百二十五年ノ頃既ニ倒行律  
 ニ關スル種々ノ定律ヲ集成シ尚ホ新立ノ良法  
 ヲ加ヘタリ此レヨリシテ左ノ件々ヲ定メシ  
 一 未定負債 按ニ約定等アリタルニ其事ホタ  
果サスシテ負債未定ナルモノヲ  
云 詮議ヲ許ス事  
 一 財産配分ノ計算ヲナシ其餘贏アレハ債本  
 ノ利息ヲ負フヘキ事  
 一 公裁ヲ經ズ債主ノ協議ヲ以テ負債ヲ處分  
 スルヲ許ス事



一 商賈其負債ヲ償却スルノ目途ナキ時コレ  
ヲ公訴シテ自ラ公裁ヲ乞フヲ許シ其レ  
ヨリ其財産ヲ債主ニ分與スルノ處分ヲナ  
ス事

クイムリヤム第四世ノ時一千八百三十一年ニ  
於テ新法ヲ定メ倒行處斷ノ費項ヲ減シ時日ノ  
遷延ヲ省キ不明ノ處斷ヲ止メシトニ注意シテ  
ヨリ舊法ナル七十名ノ倒行辦事官ヲ廢シ更ニ  
十名ノ判理官并ニ記録官書記生等ヲ置キ倒行  
ノ裁判所ヲ改立シ種々ノ法憲ヲ定メタリ其要

如左

第一 司法元老

按ニ英國第一ノ司法大臣ニシ  
テ最モ高位ニアルモノナリ  
ヨリ負債者ニ宣示ヲ送ルヲ改メ倒行  
請票ヲ以テコレニ易ハタル事

第二 倒行者家産ノ分當事務ヲ辦理スル職員

ヲ命スル事

第三 諸代辦者

按ニ代理人ノ如キ  
モノニテ債主ニ代  
リ負債者ニ難問  
ヲナスモノヲ云  
暗狀師  
共倒行裁判所ニ於テ事  
ヲ處スルヲ得且負債ハ當人ノ誓狀ニ依  
テ證スルヲ許ス事



第四國內ノ倒行事務ヲ裁スル判断司ヲ撰舉

スルタメ定員ノ辦事官ヲ命スル事

第五倒行者ノ家産ヲ處分スル事ニ於テハ辨

理官ニ任シ諸事仲裁按ニ債主共ニ負債

議官ヲ出シテ定議ヲ以テ断決セシム然シ

テ其件々裁判所ニ於テ取探アルヘキ事

倒行律ヲ改定スルノ頻々ナレモ未タ全ク商客

債主ヲ守護スル充分ノ方法ト云ヒ難シ負債者

偶々其家産ヲ竊カニ賣却シ或ハコレヲ隠シ其

他違法ノ所業ニ依テ主タル財産ハ悉ク烏有ニ

屬スルヲアラシ此故ニ追次商業ノ盛大ナル世

トナリ立法官此倒行律ニ注意アルヲ實ニ主要

ノ件ナレハコレヲ協議公定セシモノハ一千八

百四十九年ビクトリヤ王ノ改定律ナリ但シ其

改正ハ緊要ノ條款ノミニシテ舊法ニ基キタル

トモ多カラシ

第一倒行處斷ノ方法ヲ簡易ニナシタルハ倒

行開緒ノ請票ベナシヲ以テ舊法ナル司法元老

ノ宣示ニ易ヘシ事

第二時間ヲ省キ費項ヲ減スルハリシコル



スイン<sup>町</sup> 法局ニ在ル <sup>ハインチヤレセル</sup> 副元老ノ案ヲ經タル事件ヲ以テ 辨理官ニ附シコレヲ協議セシムル事

第三公裁ヲ經スシテ倒行家産ヲ容易ニ處分スル要件ノ事

第四商務上ノ失錯ヨリ倒行ニ至ルノ種類區々ナルガ故形態状ニ本ツキ其等階ヲ定ムル事

凡テ商賈ノ廢直ニシテ破産ニ至ルモノト不正ニシテ倒ルモノトノ分別ヲナス夫レ破産ニ

至ルノ前コレヲ債主ニ告ケ債本處分ノ方法ヲ謀リ己レ一身ノ守護ヲ得テ然シテ其財産ヲ受托者ニ委子公裁ノ煩ナク家産ノ處分ヲナス歟或ハ一ノ辨理官ノ助ケヲ以テコレヲ裁判所ノ管轄ニ附シ家産處分閉店ノ手段ヲナシテ可ナリ然ルハ何レモ倒行ノ痕跡ナシト云ヘシ然レモ若シ事實已ムト得ス倒行ニ至ラントスルハ事態ヲ検査シ倒行處分ノタメ右等ノ事務ヲ裁判所ノ辨事官ニ委子テ然シテ何等ノ倒行ニ當ル歟ヲ斷セシム一等ノ倒行トハ全クノ



不幸ヨリシテ破産シタル商賈ヲシテ其負債ヲ  
 還辨セシムルノ事ナリ二等倒行トハ悉ク不幸  
 ニ而已出デザルモノナリ三等倒行トハ総テ不  
 幸ヨリ起ラサルモノナリ如此負債ノ事態ヲ判  
 理スル一人間商務ノ道理ニ關シ實ニ此法律上  
 ニ於テ最要タルモノナラン  
 司法元老ウエストブレ人名嘗テ大狀師タリシ  
 氏頗ル注意シテ償債スル不能モノヲ處斷スル  
 ノ最要法律ヲ改正セント企テ然シテ一千八百  
 六十一年第八月六日ノ定律アリ以テ大英國ノ

ノ倒行事件ニ關スル法律ヲ改メントセリ然レ  
 凡此律ハ舊法ニ基キタルモノニシテ僅カニ刪  
 正ヲ加ヘタルノミナリシ

右改定律ハ一千八百六十一年第十月十一日ヨ  
 リ履行シ且一千八百四十九年并ニ同五十四年  
 定律ノ未タ消刪セサルモノモ亦コレヲ合用シ  
 テ一部ノ律トナシ名ケテ一千八百六十一年定  
 ノ倒行律ト云  
 一千八百六十一年ノ定律中最モ卓越シタルモ  
 ノハ舊法ナル倒行律ト折本律トノ分別ヲ止メ



折本裁判所ヲ廢シ凡テ同一ノ處分法ニナシタルモノナリ其他最要ノ件々改定左ノ如シ

第一折本ヲ處断スル法ヲ簡易ニナス事

第二改定律ニ依テ債主ト負債者トノ私約并ニ公裁ヲ不經負債斟定處断ノ方法倍マ  
ス容易ナル事

第三負債ヲ償ヒ難キタメニコレヲ下獄スル  
ノ罪科ヲ追次ニ廢止セシムヘキ事

第四既ニ述タル如ク法ニ於テ倒行ト折本ト  
ヲ總テ同一ニ認ルノ事

改定律履行ニ當リ實地ニ於テ其最モ要タルモノハ負債者ノ家産ヲ處分スルニシニ然シテ  
コレハ充分債主ノ手ニ權ヲ與ヘ官ニ於テノ權  
ハ最少ナカルヘシ此件ニ次ク要用ナル件ハ商  
賈ト商賈ニアラサルモノト倒行ニ於テ差異アル  
トノ法ヲ廢スルノヲナリ○男女ヲ論セハ廿  
一歳以上ノ者ハ貴族平民ノ階級ナク本國人或  
ハ寄留ノ外國人タルノ分別ナク皆此倒行法ニ  
從フベキモノナリ但外國ノ公使ハ此限ニ非  
且顛狂者ハ其狂スル以前ニテシタルヲ證ト



シテ倒行律ニ處スベシ○從來都府限界ノ外各  
 縣ノ裁判所ハ倒行裁判所分局ト同ク倒行ヲ處  
 斷スルノ權ヲ有シ負債者ノ自訴シテ倒行ヲ乞  
 フノ輩其債額三百ポンドステルリングヲ過ギ  
 ズ當人ハ都府ノ界内ニ住居セザルモノハ此局  
 ニテ裁判ヲナスナリ但シ都府ノ界限ハ驛邊本  
 寮ヨリ二十里以内ノ地ニ限レリ倫敦ニアル倒  
 行裁判所ハ凡テ倒行ノ如何ナル請票ニテモコ  
 レテ裁判分局ヨリ各縣ノ裁判所ニ轉移スルノ  
 權ヲ有ス但シ各府ニアルモノハ此限ニアラス

前ニ述タル商務失錯ヨリ倒行ニ至リタル形態  
 ニ等階ヲ立ツルトハ後遂ニコレヲ廢止セリ  
 一千八百六十一年ノ定律モ尙未タ充分ナラサ  
 ルトテ遂ニコレヲ束閣シテ然シテ今日用ユル  
 所ノ倒行律ハ一千八百六十九年ニ定メラレタ  
 ル所ノモノナリ

第二條

折本

倒行ト折本ト其處斷ニ於テ分別ナシト雖モ其  
 解義ハ二種ノ別アレハコレヲ共ニ止ムルヲ  
 得ス



折本者ト云意ハ尋常ノ商賈其負債ヲ償却スルノ方法ナキモノヲ云ヒ解義ニ於テ倒行トノ別ニ二款アリ

第一倒行タル當人ハ必ス商賈タルヘシ折本タルモノハ獨リ商賈ニ限ラス

第二倒行者ノ家産ハ諸事處断ヲ了リタル上其身放釋サレ再ヒ商業ニ就キ家産ヲ有シ財貨ヲ運轉シ新債ヲナスコトヲ得ルナリ折本者ハ大ニ異リテ其身ハ保護ヲ受テ處律ヲ了リタルト雖モ再ヒ財産ヲ有

スルコトヲ得ス

折本處断ノ片誓文ヲナシテ終身其負債ヲ償却スヘキコトヲ圖ルヘシト記載簽名スルユハニ債主ハ其貸金ヲ得ル迄ハコレヲ負債者ニ迫ルノ權ヲ有スヘシ○夫レ一旦處律ヲ經テ負債者ノ犯法ナキヲ檢シ當人ハ放釋セラレト雖モ死ニ至ル迄其負債ノ全額ヲ報償スヘキモノニテ債主コレヲ緩急スルノ權アルニ依ルヲ以テ若シ其債額償却ノ方法アルト認ルキハコレヲ裁判所ニ出シ負債者ノ新タニ得タル所ノ所有物



第三條 倒行ニ處スルヲ得ル者

ヲ以テ償却セシムル歟ヲ公判スヘシ  
一千八百六十一年ノ定律第九節ニ云負債者ハ  
商賈ノ有無ヲ問ハス總テ倒行ニ處スルヲ得  
ベシト但シ負債者タルモノハ商賈ニ非ザルハ  
ナシ然レモ特別ノ業務形状ハ此限ニアラズ○  
一千八百六十九年ノ定律ニ於テ其分別ヲ詳掲  
セリ

商賈トハ賣買ヲ業トシテ今日ノ生計ヲナスモ  
ノヲ云他人ト約定ヲナシテ賣買ヲナスモノヲ

モ合セ稱シ別ニ中外人ノ差異ナシ○一千八百  
六十九年ノ定律ニ商賈ト稱スヘキ業躰ノ制ヲ  
定メタルヲ如左

- 礬石セリウクリヤノ製工 藥舖 夜冷者オノシヨキル 銀行 漂舖セントラフヤ
- 市僧ナカバシ 製煉化石ノ舖 建築家 算曆家 木
- 匠家ニハコシヤ 担工カハレイヤ 鬻牛羊者 驛車主 乳牛ノ主
- 染色家 作灰家ライニメーカ 柴薪家 酒樓主 食舖主
- 寓舖ノ主 茶亭ノ主 車輿家 適市ノ蔬菜
- 鬻ク者 車機ノ主 打包者ニツクシ 印刊家 株カ
- 券市僧カガタノチカシ 純羊ノ主 商項市僧カイヤモトキニナカシ 商項散工シヤセンカシ



賣飯家 倉庫主 馬頭主 寫字或ハ代筆ヲ  
ビクチユール ウエーハハクスタン ウキラインダル  
 業トスルモノ 貨財或ハ家産ノ托ヲ受ル者  
 諸保險公司 兌換舖 訂價ヲ以テ雜貨ヲ賣  
ウケケアイ イシシカレンス サカンチキ ハイケン  
 買スル者 百貨ヲ交換スル者 托ヲ受テ商  
 賣スル者 交托商行  
ニモツヒキウラトシヤ コシシグニ  
 其他總テ自己ノ為メ或ハ他人ノ代理トナリテ  
 賣買ヲナス歟又ハ物品等ヲ貸與シテ其利ヲ得  
 或ハ貨物ヲ製造シコレヲ鬻グテ生計ヲナスモノ  
 等ハ皆倒行ニ處スルヲ得ルナリ  
 夫レ農夫牧牛者尋常ノ職工傭工ノ徒或ハ其業

務ノ形状ニ於テ倒行タリガタキ所ノ會社中  
商賈ニ 非ル者等ハ此倒行律ヲ以テ處セントスル商賈  
 ト認メ難キモノナリ  
 家具ヲ備ヘタル房室ヲ貸シテ生計ヲナスモノ  
 モ亦倒行律ニ於テ商賈ト認メ難シ然レハ他人  
 ニ貸サンガ為メ家具ヲ買求ムルモノハ此限ニ  
 アラス  
 代辦者ノ倒行ニ至ルハ代筆家ノ名義ヲ以テ  
アクトロイ  
 倒行律ニ處スヘシ但シ代辦者ノ業躰トシテハ  
 倒行ニ處スルヲアタハサレハナリ○炭坑ノ主



人并ニ鬻炭者鑿石者並ニ鬻石者ハ商賈ト認メ  
 ザ其他在職ノ官員或ハ制限ヲ立テ買賣ヲナス  
 モノ假ヘハ學校教師ノ如ク書籍ヲ蓄ヘテ書生  
 ニ賣與スルノ類又ハ約定ヲナシテ兵隊ノ糧食  
 ノ供スル者ハ總テ皆商賈ト認メテ倒行ニ處ス  
 ルコトヲ得難シ  
 一則ノ倒行律ニ於テハ唯賣買ヲ業トスル商客  
 ト而已アリテ其義ノ解説甚々充分ナラス故ニ  
 其商賈タル有無ノ疑問ハ法律上只其業務ノ體  
 裁形状ヲ以テ總テコレヲ決スルナリ○商業ヲ

檢スルニ其賣買ノ項額ヲ問ハス唯其業躰ヲ瞭  
 察センコトヲ要シ陪審官裁判ノ席ニ其倒行タル  
 ベキ當人ノ業躰ヲ証シ商賈ノ有無ヲ定ムルナ  
 リ○女帝アン第九令第十二則ニ云外國ノ公使  
 或ハ本邦執政官ノ用ニ給仕スルモノハ全ク特  
 別ノコトニテ前ニ述タル商賈ト認メサルモノ  
 内ニモ亦入計セザルナリ  
 人ノ妻タリテ倫敦府ニ於テ商務ヲナシ或ハ一  
 商客ノ如ク商業ニ奔走スルモノハ其夫證人ト  
 ナリテ然シテ倒行ニ處スルヲ得ルナリ



第四條 議員倒行ノ擔當

凡ソ議員タリテ倒行ヲ免カル、トアタハス破  
 産ノ輩ハ他平民ノ如ク倒行ニ處スヘシ然レモ  
 議員ノ任ニ在ルノ際ハコレヲ捕捉シ或ハ下獄  
 スルヲ許サス

議員ノ輩若シ裁判所ノ令ヲ拒ミタルモコレ  
 ヲシテ倒行ニ處セシムベシ 按ニ裁判所ヨリ送與スル  
 諭書ニ從ハナルヲ云欤

シヨ一、三世第五十二令ノ第一百四十四則  
 ニ於テ債額ヲ悉ク時限ニ償却スルヲアタハズ  
 シテ倒行ニ至リタル議員ハ其職任ヲ放ツトノ

條件ヲ定メタルガ故ニ若シ議員タル者遂ニ其  
 償債ヲナシ難キモハ其事ニ就キ負債ノ辦事ヲ  
 設ケシヨリ十二ヶ月間ハ議院ニ出座シテ發說  
 ヲナスコトヲ許サス但シ右時間ニ於テモ其債額  
 ヲ償却シ債主満足シテ負債處分ヲ止メルニ至  
 ラタルハ此限ニ非ス

第二節ニ又云若シ十二ヶ月間ニ負債ノ處分未  
 タ卒ラス又債主モ其意満足セズンハ負債ノ辦  
 事ヨリ其狀ヲ議長ニ告訴シテ然シテ議員タル  
 ノ撰任ヲ放タシメ十四日ノ間新聞紙ニ掲載シ



議員ノ欠員ニ依リ新員ノ撰擧ヲナスタメ新勅  
 ノ要スルトノ旨ヲ議長ヨリ皇帝ノ内史迄傳票  
 ヲ以テ上申スヘシ  
 前ニ述ル法例ハ皆當今廢棄セリトイヘ凡尚此  
 法ニ彷彿タルモノ一千八百六十九年ノ定律中  
 第二十一則並ニ第二十四則ナリ  
 茲ニ倒行律ノ他一ノ要件ヲ附録シテ云凡ソ倒  
 行又ハ折本タル歟或ハ協議ノ上閉店ヲナシタ  
 リ凡其負債ヲ悉皆償却ナサバリシモノハ何者  
 ニテモ後コレヲ倫敦義兵隊ノ士官トナスコトヲ

許サス按ニ倫敦ノ義兵隊ハ頗ル名若シ又コレ  
聲ヲ保護スルモノナラシ  
 士官タラシムルハ罰科トシテ一百ポンド  
 ノ罰金ヲ出サシム

第五條

合本會社ノ倒行

責頂制限會社責任ノ金額ニ制限ヲ立テ其計外  
 責任ノ額ハ會社ニテ關係セサルモノヲ  
 云フ有無ニ拘ハラス合本會社ノ倒行ハ一千  
 八百六十九年ノ倒行律ヲ以テ處シ難シ然レ凡  
 コレヲ處スルノタメ一千八百六十二年ニ於テ  
 會社律ヲ設ケ若シ合本會社ニテ社中ノ互約ニ  
 從ヒ商業ヲナスコトハガハルノ際ニ至ラハ解



社ノ手段ヲナスナリ然シテ其解社ヲナシテ適  
 當ナルヤ如何ヲ考定スルハ大凡裁判所ノ任ニ  
 在リ○然リト雖氏解社ハ社中ノ協議ニ依リ好  
 シテコレヲナスモノアリ又ハ裁判所ヨリノ指  
 令ニ從テナスアリ  
 解社ノ事務ヲ領帶スルモノヲ清數者ト名ケ然  
 シテ其任ハ會社ノ負債ヲ分償スヘキリクイデーラル社中合カ  
 スルモ責任ニ當ル所ノ社中即チ當今在社ノ輩  
 ハ勿論既ニ退社シタルモノマテヲ聚議シテ會  
 社ノ負債全計ニ給スルノ金額ヲ募集スル所ノ

モノナリ○會社律第三十八款ニ於テ會社中各  
 員ノ責任ヲ揭示シテ云ク凡テ此律ニ從ヒ會社  
 ノ解ントスルニ當リ社中ノ各員當時在社タル  
 モノ且ツ既ニ退社シタルモノニテモ會社ノ責  
 任ナル負債ヲ償却スルノタメ其債額ノ全計是  
 ニ解社ニ就テノ雜費等ヲ分償ス、シ但シ其金  
 額ノ償入ハ左ニ示ス所ノ分別ヲ以テ分償ノ適  
 法トナサンコトヲ要ス

第一解社ノ議ニオヨブノ前一年以上ニ社  
 中ヲ退キタルモノハ會社ノ負債ヲ分償



スルノ責任ナシ

第二退社セシ輩其退社ノ後ニ會社ニ於テ他人ト約定シタル負債ノ責任ハ總テコレヲ分償スルニオヨバズ

第三此會社律ニ從ヒ在社ノ各員ヨリ負債ヲ分償スルコト能ハザル時ノ外退社ノ輩ハコレヲ分償スルノ責任ナシ

第四合本會社其分株金ニ依テ責任ニ制限ヲ立テタルキハ其限額外ノ金項ハ社中ノ輩ヨリ分償スルニオヨハズ但シ社僚ニ

シテ若シ其分株金ノ全額ヲ未タ出シ了ラサルモノハ現在ノ社僚或ハ退社ノ輩トモ同ク皆其限額外ノ責任ヲ擔當セシム

第五合本會社若干ノ保證ニ依テ責任ノ制限

ウケテ  
カレンチ

ヲ立テラレタルモノモ亦初メ結社ノ片出シタル證書面ニ確定シタル金額ノ外

社中ノ何人タリモ分償ノ責任ニ任シ難シ

第六此會社律ニ於テ社僚責任ノ制限ヲ立テ負擔スル所ノ約束ハ縱令保險等ニテモ其レニ設ケタル制限ヲ破リ責任スル



一ヲ得ス夫レ此等ノ件ハ會社ノ全資本  
 ヲ以テ擔當スル所ノモノナレハナリ  
 第七社僚ニアラサル債主ト會社トノ間既ニ  
 論議起リタル以上ハ會社ヨリ社僚、分  
 與スヘキ利得等ノ滞金ハヨレテ會社ノ  
 負債ト認ルルヲ許サス然レモ右社僚ノ  
 收入スヘキ利金ノ計ヲ以テ公判分償ノ  
 金額ニ入計スルヲ得、シ即分償金額  
 引去ル

第六條 倒行律 一千八百六十九年公定

今茲ニ倒行律則ノ最要ニシテ舊ヲ去リ新ヲ立  
 定シタルモノヲ編述ス夫レ一千八百六十九年  
 ノ倒行律ハ文章明瞭ニシテ主要ノ解說ヲナシ  
 タルカ、ユヘコレヲ掲ルル左ノ如シ

審理公判

第六節 凡ソ債主一名ナル歟又ノ數名ノ債主  
 其債額ヲ合併シテ一口ノ債額英金五十磅以上  
 ナレハ債主ヨリ一請票ヲ裁判所ニ出シ倒行ニ  
 處セシメレトテ乞ヒ得然シテ茲ニ陳述スル倒  
 行律中ニ詳掲ミタル件々ノ條款ニ基キ公判處



斷ヲナスベシト定ムル所ノモノナリ

第一凡ソ英吉蘭土又ハ其他ノ地方ニ於テ負債者其私有ノ財産ヲ悉ク総債主ノタメ一ノ受托者ニ附與スヘキ事

第二英吉蘭土内又ハ其他ニ於テ負債者其財産ニ付奸詐ノ所置ヲナシ或ハ狡計ヲ以テ他人ニ讓與スル等ノ犯罪者處分ノ事  
第三負債者其債主ニ強テ勝タンコトヲ謀リ或ハ處置ヲ因循セントシテ英國ヲ脱シ又ハ他ニ在テ歸ラス又ハ居家ヲ他ニ轉シ

テ商業ノ營ミ又ハ其身居家ヲ脱走シ又ハ別ニ家ヲ保有スル等凡テ犯法ヲ企ツル輩處分ノ事

第四負債者事實其債額ノ返辨ナリ難キ趣ヲ證シコレヲ裁判所ニ自訴スルヲ許ス事

第五法律ニ從ヒ英金五十磅以上ノ金額ヲ得ルカタメ負債者タル一商賈ヲ拿獲シテ然シテ其賣貨ヲ公賣シ負債者ノ處分ヲ斷スル事

第六英金五十磅以上ナル所ノ負債ヲ返辨ス



ベシト既ニ一ノ諭書按ニ此諭書ハ債主ノ公訴ニ依リ債金ヲ證シテ以テ裁判所ヨリ以テ負債者ニ送ケ商賈ナレハ七日間商賈ニ非ザレハ三周日ノ暇ヲ與ヘ償債ヲ辨セシム然シテ負債者若シ其償債ヲ懈リタルカ或ハ債主トノ和談モナサス或ハ抵當保證等ヲモ出サビルルハ債主一ノ倒行請票ヲ裁判所ニ送リ負債者ノ處分ヲナサシムル事

以上記載スル所ノ地位ニアル負債者タリ凡直

チニ倒行ニ至ラシムルヲ許サス但シ其請票ヲ以テ處断ヲ乞フノ前既ニ六ヶ月ニ於テ倒行ヲ乞フノ基礎ヲナシタルモノ而已愈々處断スルヲナレハナリ且請票ヲ捧ケタル債額ハ法律ニ於テ分明ナラサルモノヲ裁許セス又抵當アルノ債ハ倒行ニ處スルノ片コレヲ債主ヨリ悉ク出シテ総債ニ分當セシムヘシトノ旨請票ニ掲ケサルモノヲ裁許セス但シ又右抵當ノ債額ヲ引去リ尚ホ債額ノ餘計アルモノハコレヲ債金ト認メ負債者ニ請求スルヲ得ルナリ凡ソ債



主其擁スル所ノ抵當アル片ハ公判ヲ經タル後  
 法律ヲ以テ定メラレタル時限ノ間任スル所ノ  
 受托者ニ其抵當財産ヲ附托シ其價銀ヲ以テ總  
 債主ノ公利ニ供セントス  
 第七節 負債ノ形状充分ニ倒行ノ請票ニモ適  
 スヘキヲ實驗シ債主ノタメニ裁判所ヨリ一封  
 ノ諭書ヲ負債者ニ送與シ償債ヲ督促ス○右諭  
 書ハ法則ニ從テコレヲ作り即チ皇帝陛下ノ一  
 等裁判所ヨリ出ス諭書ノ文法ト畧同則ニシテ其  
 文中ニ述ルハ負債者其諭書ニ掲ケタル債額ヲ

償却セサル歟又ハ債主ヲシテ満足セシムル熟  
 談モナサバブルキハ倒行ニ處セント乞フ所ノ債  
 主ノ請票ヲ裁判所ニテ採收スヘシトノ意ヲ記  
 スルナリ諭書ノ裏面ニハ負債者手記ノ簽名ヲ  
 ナサシメ以テ其文中ノ主意並ニ希望ノ件ヲ負  
 債者ニ示シ然シテ負債者コレヲ注意セザル片  
 ノ確證トナスヘキノ良法トス○負債者縱令裁  
 判所ヨリ法律ニ從ヒ定期ノ諭書ヲ受クルトイ  
 ハ凡若其諭書面ニ在ル債主ニ對シ負債ナキ歟  
 又ハ當人ニ對シ債主ヨリ倒行ノ請票ヲ出シテ



不相當ナル債額ナレハ其旨ヲ裁判所ニ上申シ  
 諭書ヲ免カル、トテ許ス或ハ事曖昧ニシテ其  
 事實検査ノ上若シ其債額并ニ費用ヲ徵求スル  
 事アレハ直チニコレヲ出スベシトノ保證按抵當ニ  
 品物又ハ相應ノヲ出シ置ナレハ暫ク其負債督  
 證人アルヲ云フヲ止ム依テ左ノ法ヲ設  
 促ノ諭書ヲ送與スルトテ止ム依テ左ノ法ヲ設  
 ケタリ

若シ倫敦ノ倒行裁判所ヨリ督促諭書ヲ送與  
 サレタルモノハ其裁判所又ハ其他公判ノ權  
 アル裁判所ニ於テ處分ヲナシ其餘權外ノト

ハ公判全權ノ裁判所ニ致スヘシ  
 第八節 負債者ヲシテ倒行ニ至ラシメント乞  
 フノ請票ハ法ニ所謂倒行請票ナルモノニシテ  
 宜シク適法ノ文射ニナスヘシ裁判所ニ於テ倒  
 行請票ノ訟ヲ聽クニアタリ債主并ニ負債ノ確  
 證ヲ檢シ商賈ノ業務ヲ問ヒ此問ヲ要スルノハ倒行律ヲ  
 考ヘ若シ律中ノ二則以上ニ關スル請票ナレハ  
 其定則ヲ按シ然シテ諸件ノ確證皆充分ナルハ  
 初メテ負債者ヲ倒行ニ處スルノ斷ヲナス○裁  
 判所ニテハ検査審理ヲナシ公判ニ依リ以テ一



ノ約束ヲナスカ按ニ保證ヲ要スル等ヲ云フ又ハ唯其請票ヲ免シ其雜費迄ヲモ問ハス總テコレヲ放釋スルニ裁判所ノ公定ニ從フヘキナリ

第九節 請票ニ依リ負債者來ルニ當テ若シ其當人其債主ニ對シ負債ノアルコトヲ拒ミ或ハ債主ヨリ倒行請票ヲ出シ不適當ナル債額ナリト陳述スルハ裁判所ニ於テ保證ヲ採リ置キ公法ニ從ヒ約シタル負債ノ金額并ニ其費用共何時ニテモ裁判所ニテコレヲ收受シ得ルノ手段ヲナシテ然シテ右負債ノ事件詳密確證ヲ得ル

迄ノ際其審按メタメ倒行ノ處断ヲ猶豫スルコトアルヘシ但シ右公判ハ前ニ述タル律則ニ從ヒ手段ヲナス所ノモノナリ○若シ甲ノ債ハ事故アリテ暫ク聽訟ヲ止メ或ハ裁判所ノ考定ニ依テ裁断ヲ猶豫シタリト雖モ乙ノ債主ヨリ新タニ請票ヲ出シタルハ其負債者ヲシテ乙ノ請票ニ從ヒ倒行ニ至ラシムルコトヲ許ス然ルハ甲ノ請票ニ基キタル裁断ノ猶豫ハ無益ニ屬スルカ故此レヲ乙ト共々倒行ニ断スルナリ

第十二節 倒行處断ヲ經タル負債者ノ債金此



倒行律ニ適スルモノナレハ右其債主ニ對シ抄  
モ負債ナク已レノ面目并ニ財産ヲモ回復スル  
コトヲ得ヘシ○此律則ハ凡テ負債者ノ抵當保證  
ヲ權シタル債主ノ權利ニハ關係セス夫レ其保  
證物品ハコレヲ賣却スヘキ所ノモノナレハチ  
リ  
第十三節 負債者ヲ訴ヘタル請票ヲ收受スル  
以上ハ何時ニテモ裁判所ニ於テ其倒行タルヘ  
キ負債者ニ對シ聽訟審按等至當ノ所為アルヘ  
シ且負債者既ニ倒行訟案ノ起リシ以後若シ更

ニ所得ノ財産等アリタルヤ如何ヲ檢査セシカ  
タメ裁判所ニ於テ至當ノ所為アルヘキヲ要ス  
○裁判所ニ於テ倒行請票ヲ收メタル後其負債  
者ノ家産或ハ商務ヲ主管スルノ職員一名ヲ命  
シ速ニ右家産又ハ商務ノ讓傳ヲ受ケシム

受託者ヲ命スル事

第十四節 處断ノ指令ト名クル宣示ヲ下シ負  
債者ノ處分ヲナス片其所有ノ財産ヲ以テ總債  
主ニ分與センコトヲ要ス但シ其配法ハ各債主ヨ  
リ證セラレタル負債ノ高ニ從フナリ然シテ右



分與ノ事ヲ始ムルニアタリ裁判所ニ於テ速ニ  
総債主ヲ徵集シ會議ヲ開キ茲ニ示ス所ノ手段  
ニ從テ所置ヲナスヘシ

第一債主定議ノ上債主ノ内又ハ餘人ナリ  
相當ノ人物一名ヲ撰ミ倒産家産ノ委託  
ヲ受クル任ニアラシム右家産ハ定時ニ  
於テ債主ノタメ配分セント圖ル所ノモ  
ノナリ或ハ債主ノ權ヲ以テ其受託者ノ  
任ヲ移シ監督者後ニ詳ヲシテ兼任セシ  
ムルトモ亦可ナリ

第二債主其定議ヲ以テ受託者ヲ命ゼハ當人  
其任ニ當ルノ已前ニ如何ナル保證ヲ債  
主ニ出ス歟ヲ質問スヘキ事

第三債主第一會ノ定議ニ依リ相當ノ人物ヲ  
撰ミ監督者ニ命シ以テ命令状ヲ與ヘ委  
托者ノ事務ニ宰メラシムヘシ但シ其人  
員五名ヲ越ユヘカラス

第四債主等定議ヲ以テ受託者ノ司サトル倒  
産家産ノ事務ニ付指令スルノ權ヲ有シ  
然シテ受託者ハ其號令ヲ奉シ事務ヲ整



頭スルコトヲ任トス但シ裁判所ノ特令等  
アルキハ此限ニアラス

第十五節 債主ニ分與セントスル家産ハ左ノ  
件々ニ關スルモノヲ許サス

第一 既ニ他ノ受托者ノ手ニアリテ倒行ニ處  
セントスルノ家産

第二 商用ノ器械若レ所有ナレハ 是ニ夫妻子女着服  
ノ品卧寢ノ具右三種ヲ合セテ價位ノ總

計英貨二十磅ヲ過クヘカラス  
債主ニ分與スヘキ家産ハ左ノ件々ニ限ルヘシ

第三 倒行處置ノ初メニ於テ倒行家産ト定メ

ラレタル者并ニ其倒行處分中ニ負債者  
自ラ得タル所ノ財産按ニ負債者所得ノ  
財産トハ倒行ノ裁

第四 倒行裁判ノ始リシヨリ落成迄ノ際ニ倒  
行者ノ得タル財産ニ於テハ裁判所ニ於

テコレヲ處置スル充分ノ權ヲ有スベシ  
然レハ宗教ニ關レ有益ノ地位ヲ得クル

ハ此限ニアラス  
第五 負債者商估ナレハ其所有ノ雜貨商品等



ハ倒行處置ノ初メニ於テ所持主ノ許シ  
 ラ受テ受托者ノ手ニ擁シ倒行ノ手段ヲ  
 ナシテ所持主ニ代リ之ヲ賣却スルノ權  
 ヲ附スヘシ然レハ商業ノ為メニナシタ  
 ル負債ノ外ハ此限ニ非スシテ前ニ云ヘ  
 ル雜貨商品ト一様ニ認ム可ラス  
 第十六節 債主ノ會議ハ裁判所ヨリ嘗テ指令  
 スル所ノ規律ニ從ヒ會議ノ規則ヲ奉シテコレ  
 ヲ開キ或ハ休議ヲナス等凡テ會議ノ常則アリ  
 依テ其則如左

第一會議ハ記録官

按ニ倒行裁判所  
ニ屬スルモノ故

議長トナ

ルヘシ若シ疾病等其他已ムヲ得サル事

故ニテ出頭ナリカタキ時ハ會議ノ公推

ヲ以テ更ニ議長ヲ舉クヘシ

第二債主タリトテ確證ナクシテ此會議ニ發

說スルヲ許サス夫レ茲ニ債主タルモ

ノハ法律ニ依リ其倒行タルヘキ債金ヲ

證シ既ニ會議ニモ預リタルモノナレハ

ナリ

第三未定ノ貸金或ハ金額不分明ノ債主ハ此



會議ニ預リ發說ヲナスコトヲ許サス

第四貸金ノ為ニ抵當ヲ擁スル債主此會議ニ

於テ發說ヲナスニアタツテハ其抵當品

ノ價位ト貸金ノ額數等ヲ差引キ貸金ノ

高ニ未タ充タサルモノアレハ全ク其不

足高限リノ債主ト認メテ此議ニ與カラ

シム但シ其抵當ノ價位ハコレヲ賣却シ

真價ヲ得ルマテノ間法律上ニ於テ一定

スヘキモノナリ○然レモ右抵當ヲ擁ス

ル債主ハ最初ノ會議ニ於テ其抵當品ヲ

總テ受托者ニ委ヌレハ己レ其債額總計

ヲ合テノ債主タルコトヲ得ルヲ通例トス

第五倒行律ニ所謂ル保證ヲ擁スルノ債主ト

ハ凡テ負債者ヨリ出シタル抵當品物又

ハ典物等ヲ擁スルノ輩ヲ云ナリ

第六債主會議ニ於テ發說ヲナスルハ當人又

ハ其代人ヲ出シテコノ議ニ預ラシムル

モ亦可ナリ

第七通例會議ノ決ヲ採ル方法ハ來會ノ債主

各發說ヲナシタル上債額ノ大ナル債主



ノ衆論ニ從ヒコレヲ決スルナリ  
萬元已上ノ債主十人アリテ可ト云ハ  
融令五千元以下ノ債主二十人ユレヲ不  
可ト云ル其論ヲ採テ不可  
トナスコトヲ得ヤルナリ

第八特例會議ノ決ヲ採ハ總債主ノ發言ヲ合  
セ見テ同説ノ數多キモノ是ニ四分ノ三  
ハ債額ノ多數ヲ持スルモノ、決ニ依ル  
ヘシ

倒行家産ノ處置ニ於ル定則大凡

第十九節 負債者遂ニ其極己レ所有ノ家産ヲ  
賣却シ債主ニ分與スルノ他方法ナカルヘシ○

債主ノ第一會ニ於テ負債者ヲシテ其業務倒行  
ノ形態ヲ詳記シタル啓狀ヲ出サシメ然シテ裁  
判所ニテ其狀ニ基ツキ一日ヲ期ン件々ノ審査  
檢案ヲナシ其レヨリ徐々ト裁判ニ及ブヘキナ  
リ○負債者ヨリ其所有ノ家産等ヲ詳記シタル  
冊子并ニ諸債主諸負債者己レヨリ貸シタルモノヲ云ノ名  
簿且其債金ノ詳細即チ我ヨリ他人ニ貸與シタ  
ルモノ并ニ他人ヨリ我ニ借受タルモノヲ記セ  
ル帖冊ヲ出シ其趣ニ基テ會議ニ預ル債主ノタ  
メ負債者ノ家産ニ於ル檢査ヲナスナリ然シテ



其債主ハ受托者ニ代理ノ權ヲ附シ負債者ノ家  
産ヲ移轉シ或ハ約定ノ件々等ヲ管領セシメテ  
其落成ヲ待ツヘシ大凡受托者ノ任ニ依リ公平  
至當ノ考定ヲ以テ負債者ノ家産ヲ諸債主ニ分  
與スルヲ通例トス若シ然ラサレハ裁判所ノ規  
則ニ依ル歟或ハ特例ノ倒行トシテ裁判所ヨリ  
令スル所ニ從フカ或ハ受托者共ニ債主ノ定議  
ニ依リ特別ノ所置アルモ何レモ至當便宜ノ處  
分アルヘシ  
若シ倒行者此律ニ從ヒ己レノ分ヲ盡サハル歟

或ハ法律上ニ於テ債主ニ分與スベキ家産ヲ以  
テ若シ受托者ニ委子サルモノアレハ其當人ヲ  
犯法ト認メ裁判所ニ於テコレヲ坐罪セシムル  
モノナリ  
第二十節 受托者ハ其管スル倒行家産ヲ債主  
ニ分與スル事務ニ於テ債主ノ定議共ニ監督者  
ノ指揮ヲ能ク體顧セズレバアル可ラス但シ債  
主ノ會議ニ依リ示與スル所ノ指令ハ監督者ノ  
指揮ニ超越スヘシ○受托者ハ三ヶ月毎ニ少ナ  
クモ一度ハ監督者ノ集會ヲ乞ヒ以テ受托者ノ



算計ヲ閱了セシメ幾何ノ分配金ヲ債主ニ配與シ得ベキ歟ヲ決定スヘシ且若シ事宜ニヨリ要用ナレハ特例ヲ以テ監督者ノ集會ヲ開場セシムルコトアルベシ○既ニ述タル如キ定法ニ依リ受托者ハ其權ヲ有シ倒産家産ノ處置并ニ其レヲ債主ニ分與スルノ事務ニ於テハ自ラコレヲ任シテ裁了スヘシ○受托者ハ常ニ債主ノ希望ヲ瞭知センカ為メ時々債主ノ集會ヲ請ヒ且倒産事務ニツキ起リタル重大ノ事件ハ定則ノ手段ヲ以テ其指揮ヲ裁判所ニ求ムヘシ○債主并

ニ負債者又ハ其他ノモノニテモ倒産ノ事務ニ於テ受托者ノ所為方法甚々煩悶錯雜ニ堪ヘ難キ等ノ事アラハ其旨ヲ直ニ裁判所ニ告ルコトヲ要ス然ルキハ裁判所ニテ右錯雜ノ所為ヲ改定シ更ニ至當ノ方法ヲ與フベシ○裁判所ニ於テモ亦倒産ノ處分中債主ノ所望ヲ瞭知センカタ々時々債主ノ集會ヲ尋子且ツ裁判所ニテ至當ト考定スルノキハ記録官ヲシテ債主ノ會ニ議長ヲアシムルナリ

第二十一節 第一ノ通例債主會ニ於ル規則ハ



凡テ倒行事務ニ於テ追次ニナス所ノ通例債主  
會ノ規則ニ適スルヲ得然レモ受托者ノ請ニヨ  
ル歟或ハ監督者ヨリ請フ所ノ債主會ハ此限ニ  
テラス夫レ受托者又ハ監督者ノ請ニ依テ開ク  
會議ハ來會スル債主ノ撰舉スルモノヲシテ議  
長タラシメ以テ既ニ債金ヲ證シタル債主等即  
其債額既ニ第一會ニテ判然タルノ輩ハ各參坐  
シテ發說ヲナスヲ許ス但シ裁判所ヨリ命シ  
タル債主會ニシテ凡テ裁判所ヨリ指令スル所  
ノモノハ此例ニ準シカタシ



